

News Release

平成21年2月12日

パイオニア株式会社
 代表者名 代表取締役社長 小谷 進
 (コード番号 6773 東証第一部)
 問合せ先 常務取締役経理部長 岡安 秀喜
 電 話 (03) 3494-1111

平成21年3月期 連結業績予想の修正について

平成20年10月30日に発表した平成21年3月期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）連結業績予想について、次のとおり修正しますので、お知らせします。

なお、平成21年3月期期末決算より、連結財務諸表における会計基準を米国会計基準から日本会計基準に変更することに伴い、今回修正予想については、日本会計基準に基づいて算出しています。

(金額単位 百万円)

	営業収入	営業利益 (△損失)	税引前利益 (△損失)	当期純損失
前回発表予想 【米国会計基準】 (A)	700,000	△17,000	△54,000	△78,000
今回修正予想 【日本会計基準】 (B)	560,000	△69,000	△110,000	△130,000
増減額 (B-A)	△140,000	△52,000	△56,000	△52,000
増減率 (%)	△20.0	—	—	—
平成20年3月期実績 (ご参考) 【米国会計基準】	774,477	10,907	3,434	△17,992

営業収入は、主要製品における競争の激化や世界的な景気の悪化、および急激な円高の影響を受け、カーエレクトロニクス事業およびホームエレクトロニクス事業ともに計画を下回ることにより、前回発表予想の7,000億円から5,600億円に修正します。

営業損失は、売上の減少による損益悪化の影響を見込んだことなどにより、前回発表予想の170億円から690億円に修正します。税引前損失は、営業損失の拡大に加え、有価証券評価損を51億円追加計上したことなどにより、540億円から1,100億円に修正します。以上の理由により、当期純損失は、税金費用の減少を40億円見込んだものの、780億円から1,300億円に修正します。

なお、前回発表予想 (A) における会計基準の変更による影響額を試算した場合、上

記の金額に対して、営業損失はマイナス20億円、税引前損失はマイナス5億円、当期純損失はプラス45億円となります。

業績予想における第4四半期の為替の前提レートについて、米ドルは前回発表予想より10円円高の1米ドル=90円、ユーロは15円円高の1ユーロ=115円を想定しています。

見通しに関する注意事項

当発表資料中、当社の現在の計画、概算、戦略、判断などの記述、また、その他すでに確定した事実以外の記述は、当社の将来の業績の見通しに関するものです。これらの記述は、現在入手可能な情報による当社経営陣の仮定および判断に基づいています。実際の業績は、様々な重要なリスク要因や不確定要素によって、見通しの中で説明されている業績から大きく異なる可能性もありますので、これらの記述に過度に依存されないようお願いします。また、当社は新たな情報、将来の事象、その他の結果によってこれらの記述を常に見直すとは限らず、当社はこのような義務を負うものではありません。当社に影響を与え得るリスクや不確定要素には、(1)当社が関わる市場の一般的な経済情勢、特に消費動向、(2)為替レート、特に当社が大きな売上や資産、負債を計上する米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替レート、(3)継続的な新製品導入、急速な技術開発、厳しい価格競争、主観的で変化しやすい消費者の嗜好等を特徴とする、競争の激しい市場において、評価の高い製品やサービスを継続して設計、開発する能力、(4)事業戦略を成功させる能力、(5)事業に影響を与える技術進展に応じて、競争し、販売戦略を策定、成功させる能力、(6)研究開発や設備投資に十分な経営資源を継続して投下する能力、(7)ブランドイメージを継続的に向上させる能力、(8)他社との合弁や提携の成功、(9)事業構造改革の成功、(10)偶発事象の結果などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

以 上